

第 1 回 地域振興官民協働委員会議事概要

日 時	平成 25 年 5 月 31 日 (金) 15 : 30 ~ 17 : 30
会 場	佐渡市役所 2 階第 1 会議室
出席者	委員 : 松田祐樹、渡邊啓嗣、鈴木涼太郎 (地多委員欠席) 市役所 : 地域振興課 加藤補佐、斉藤係長、有田主任、池藤主事、 総合政策課 祝係長
議 題	①平成 24 年度経過報告 ②平成 25 年度地域支援体制及び活動内容の検討
議事概要	<p>① 平成 24 年度経過報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 資料により、昨年度の経過報告。 ■ 委嘱状を渡し、昨年度に引き続き、任期 2 年でお願いする。 ■ 昨年度に引き続き、委員長は松田裕樹氏、副委員長は渡邊啓嗣氏。 <p>② 平成 25 年度地域支援体制及び活動内容の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 今年の 4 月より、各支所・行政サービスセンターに地域支援係を設置し、地域支援の体制を整備したことを報告。 ■ 佐渡市として統一した地域要望制度を創設。 ■ 地域おこし協力隊員は、今年度 8 名増員し、昨年度の 4 名と合わせて 12 名体制となる。 ■ 今年度の地域活動支援員増員の検討。二見地区に坂本辰巳さん (了承済)、松ヶ崎地区に本間稔彰さん (了承済)、豊岡地区には河原繁芳さん、高千地区は渡邊啓嗣さん (了承か?)、外海府地区は中村正さんが適任ではないか。 ■ 国中の新穂地区にも協力隊員が配置される予定なので、そのサポート役として地域活動支援員も配置しても良いのではないか。限界集落ではないが、集落活動も厳しくなっている。鬼太鼓などでも頑張っている相田忠明さんがいいのではないか。 ■ 地域振興課としては、やはり限界集落対策を第一に考えたいので、豊岡の川原さんをお願いしたい。 ■ 昨年来 3 本柱 (情報発信のプラットフォーム作り、コミュニティビジネス、国などの補助事業の活用) でやってきたが、今年度はそのうちの 2 本柱 (コミュニティビジネス、補助事業) に集中すべきではないか。 ■ 情報発信のプラットフォーム作りは、やりがいはあるが実現困難である。 ■ 中間支援組織の育成について、コミュニティビジネスサポートセンター (コミュニティビジネスの情報収集の場) を作るべき

	<p>ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ どのような中間支援組織を形成するのが重要。本来であれば、新潟 NPO 協会佐渡事務所が中間支援組織の役割を担えばよいのだろうが、現時点では難しい。 ■ この委員会で、何か成功事例を作ってから、中間支援組織に育成していてもいいのではないか。 ■ 松田委員長から羽茂地区の能合宿の取組みと、渡邊副委員長から北片辺のコミュニティビジネスの具体案を説明し、検討。 ■ 今年度予定の地域の勉強会について、現時点で勉強会の内容及び対象を決めるのは難しい。それぞれの地域のニーズに合わせて決めていくべき。 ■ 地域の食に可能性があるのではないか。「そこしか食べる場所がない」というのではなく、「“そこで食べたい” から行く」というような食と場所を作っていく。 ■ テレビ番組やダコタなどで高千が注目されている。そこに魅力的な食を提供する場所があれば、観光客等も立ち止まり、地域が活性化することとなる。そういった場所が無ければ、ただ通過するだけの場所となってしまう。 ■ 地域振興官民協働委員会で何か目に見えるような形を作るべきである。 ■ 将来的に、支援員を配置した5地区＋地域活動支援員で協議会を作り、国などの補助金の受け皿となって活動できるようになると良い。 ■ 今年度、新たな官民協働委員会のメンバーを増やすべきではないか。 ■ 小木湊まちなみの輪にも加盟している中野美奈子さんを加えてはどうか。 ■ 庁内の委員も、前任者である人事係の中村主任や、地産地消係の金子主事などを加えたい。 <p>③ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 総合政策課 祝係長より、佐渡市と市内郵便局との連携強化について説明した。
<p>次回検討 事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の勉強会の内容及び対象地区等の検討。 ■ 3本柱の1つである「情報発信のプラットフォーム作り」をどうするか。 ■ 新たな官民協働委員会のメンバーの選定。 ■ 今年度取組事業の検討。 ■ 地域活動支援員との連携など。